

これからも愛される博物館に

学習支援担当 学芸員 黒田千尋

今年度、当館の学習支援担当に学芸員として着任しました、黒田千尋と申します。専門分野は近世史です。特に宗教にかかわることに関心があり、これまでは水戸藩主の葬送儀礼について研究しておりました。平たく言うと、水戸黄門のお葬式について、です。終活という言葉が生まれて久しいですが、藩主はどのような終活をしたのか、自分の親(先代藩主)をどのように送ったのか…。埼玉県域には大藩がいくつもありますし、旗本領も多いので、葬儀の執行形態や墓域の形成についてなど、関心を持っております。

日頃はゆめ・体験ひろばの運営や出前授業、学校団体の対応をしています。ものづくり工房では主に藍染め体験を担当しており、力いっぱい、愛情いっぱい、藍がめをかき混ぜています。藍染めは着任してから初めて触れたのですが、知れば知るほど面白く、自分も楽しみながら業務にあたっております。折よく大河ドラマ「青天を衝け」で、若き日の渋沢栄一が血洗島での藍栽培に関わっている姿も描かれました。埼玉県の伝統的手工芸品である「長板中型」や「青縞」などの技術はもちろん、藍栽培や商品生産・流通の歴史にも興味があるので、これから深めていきたいテーマのひとつです。

ゆめ・体験ひろばにいと「自分が小学生のころ見学に来た記憶があるので、子どもにも体験させたくて」というご家族が多くいらっしゃいます。とても愛されてきた博物館なんだな、と嬉しくなると同時に、私も心に残る体験のお手伝いが出来たら、と背筋が伸びる思いです。これからも永く愛される博物館であるように、微力を尽くして取り組む所存です。どうぞよろしく願いいたします。

県の魅力的な文化を伝えたい

展示担当 学芸員 佐藤 夏美

本年度、当館の展示担当となりました佐藤夏美と申します。民俗学を専門としており、常設展示室第10室(民俗展示室)の展示・管理や、民俗工芸実演等のイベント運営を担当しています。展示やイベントを通して、私たちの生活の中にある身近な文化の魅力を伝えたいです。

民俗学の中でも住まい・生活文化をテーマに研究を行っており、日常の中でなかなか意識されない人々にとって「当たり前の文化」を残すこと、伝えていくことに関心があります。博物館における暮らしの展示は、文字ではなくモノを通して暮らしを伝えるため、見る者の背景によって受け取り方が異なり、文化を伝える上で課題を感じています。モノが持つメッセージを少しでも多くの方へ伝えられるように、まず私自身がモノの持つ背景について理解を深めるとともに、様々な博物館の展示事例等、生活文化の伝え方を学ぶことによって、その方法を模索しています。まだまだ道半ばではありますが、いつかその成果を博物館で活かせるように研究を進めてまいります。

埼玉県で働く職員として、学芸員としても未熟者ですが、精一杯努めさせていただきます。県内には、豊かな水を使用した紙漉きや藍染めをはじめ、地域の環境を活用した産業が豊富にあります。また、そういった産業を支える伝統のわざを受け継ぐ職人が多く存在しています。県の歴史や文化を積極的に学ぶとともに、その魅力を発信していきたいです。どうぞよろしく願いいたします。

**今後のイベントスケジュール** \* 申し込みは各イベントの募集要項に応じてお願いします。

ホームページ:<http://junosaitama.net/> ブログ:<http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- 3月20日 (日) 講演会「中世武士と馬」(一昨年に企画を中止した講演会)
- 3月25日 (金) まち歩きクラブ「嵐山町の山城・杉山城と石仏」

<今号で紹介>  
<今号で紹介>

## 「友の会」の未来に向かって

# 貴方の力を友の会へ

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会は、優待や特典を受けるだけの受益団体ではありません。博物館を愛する人たちが集まり、博物館を応援し、ともに楽しむ民間有志のみで活動する団体です。

継続して運営するためには、それを担う人が要ります。

しかしながら近年高齢化を始めとして諸々の理由からスタッフの減少が続き活動に支障をきたす事態になってきました。魅力ある【友の会】の活動の継続と発展の為、すべての会員の皆様の力が必要です。お願いしたいことは下記の通りです

### 事業・企画運営委員会部門

- 1・見学会企画・運営
- 2・講演会企画・運営
- 3・会報企画・編集
- 4・広報(ホームページ・ブログ・地域メディア)
- 9・受付当番 会報発送作業

### 業務部門

- 5・会員証発行と年会費管理
- 6・会計管理
- 7・会員名簿管理
- 8・書記, 渉外

友の会運営ボランティアに意欲・興味を持たれた方は

- 1・会員番号 2・お名前 3・興味ある部門 を明記の上

郵送・FAX・Eメール・あるいは会役員へ直接などの手段でご連絡願います

連絡先は下記かあるいは知り合いの現運営スタッフまで

- 郵送先 330-0803 さいたま市大宮区高鼻町 4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会
- FAX 048-941-0440 中村宛
- Web 友の会ホームページ「連絡フォーム」より送信
- 電話 090-2404-9553 中村迄

申し込まれた時点で 「説明会」の日程をお知らせ致します。

## 活動報告&今後の募集・予定

### まち歩きクラブの「川越七福神巡り」を1月7日に開催 10名が参加

丸2年間のコロナ禍自粛期間を経ての再開のなか、予想以上の希望者がありました。前日に東京地方に数年ぶりの大雪警報がでるといふ天候になり開催を心配しましたが、最終的には10名の参加者が元気に顔をそろえました。おなじみの常連の方や、友の会に入って今回が初参加という方にもお目にかかり、やはり活動を続けてよかったという思いです。川越駅に集合し、市内を廻って、妙善寺（毘沙門天）、天然寺（寿老人）、喜多院（大黒天）、成田山（恵比寿天）、蓮馨寺（福祿寿）、見立寺（布袋尊）、妙昌寺（弁財天）と順にお参りし、水琴窟の音も楽しみ、午後2時前に解散となりました。＜詳細はブログをご覧ください＞（筑井 記）



### 第4回 「古代文化を考える会」を1月15日に開催 49名が参加



オミクロン株感染拡大の影響が懸念される中での開催であったが、49名の出席がありました。6700年～4700年前に「朝鮮」と分れて大凌河の東側に「辰」が誕生する。―「辰人」及び「辰の言語」の誕生。「辰」の一部は「呉地方」まで南下する。彼らは倭人と呼ばれる「辰」の代表的氏族である「安曇辰伝氏」（「倭人（天氏）」）である。やがて北上した彼らは、前140年～前120年頃に半島経由で北部九州に渡来する。そして「日本人」の基盤になると同時に「日本列島」に「辰の言語」をもたらした。「弁辰」「辰韓」も「辰」の言語であったがその後亡び、「辰」の言語が残っているのは日本語だけになった。（斉藤 記）

### プレミアム講座 「縄文土器とは何か」を1月18日に開催 64名が参加

昨年度から2年にわたって殆ど活動を停止していたイベント・プレミアム講座を久々に実施しました。今回は村田章人館長のご専門分野・縄文時代の研究史にも関わる内容で、縄文土器を根源から問い直すテーマです。定員制限の中でも64名の多くの方にご出席いただきました。縄文土器の根幹を理解するために昭和初期の山内清男の研究などを例に、博物館で展示品に添えられたキャプションをどう読み取るかなどを具体的に説明されました。考古学の研究発展史にも関連して専門用語の命名の仕組みを分かり易く教えていただきました。また、縄文の文様がどのようにつけられたかを紙のこよりを使って簡単に実験する方法も伺いました。＜詳細はブログをご覧ください＞（西本 記）



＜参加者募集＞

## ◆山城の極致 杉山城を見る◆

2022年(令和4年)3月25日(金)に「まち歩きクラブ」

- 《日時》2022年(令和4年)3月25日(金) 10時00分～15時00分頃
- 《集合》東武東上線・武蔵嵐山駅 改札前 午前10時 集合 雨天中止
- 《費用》交通費は各自負担。保険と参加費用：300円
- 《概要》数多い日本の山城の中でも、専門家により「築城の教科書」「戦国期城郭の最高傑作のひとつ」という高い評価がされている杉山城は、地元町行政や保存会の努力により非常に良好な形態と地形が保たれています。今回は嵐山町役場で城の模型やビデオを見た後、山城全域を見学します。また、地元に残された素朴な石仏群も見学したいと思います。\* 友の会ブログに「情報ページ」を作成します。
- 《行程》武蔵嵐山駅→(約60分)→志賀観音堂石仏群～嵐山町役場(30分程滞在予定)→(約60分)→杉山城～六万坂石仏群(見学約70分 簡易トイレ有)→(約80分)→武蔵嵐山駅(昼食の用意をお願いします)
- 《申込・問合せ》①友の会ホームページの「申込フォーム」より送信フォームをお願いします。  
②Eメール(筑井): pu8n-tki@asahi-net.or.jp 問い合わせ電話: 090-1990-4807

前回の「JUNO」で開催をお知らせした2/19の「第33回古道を訪ねて 日光道中 その6」は延期になりました。次回以降の内容・日程は別途お知らせいたします。

古道探索倶楽部

# 中世武士と馬

馬と日本人とのかかわりから文化を考える

60年ほど前まで、物資の運搬など人びとの生活に深くかかわっていた家畜「馬」ですが、現在は、競馬や乗馬などでしか知られていません。講演では、古来より日本に存在した、いわゆる在来馬に関する基礎知識と、特に馬との関係が深かった中世・武士の時代における活用方法を中心にお話しいたします。



(平治物語絵巻より)

講師 **長塚 孝 氏** (馬の博物館 学芸員)

日時 2022年(令和4年)3月20日(日) 午後1時半～3時

場所 当館講堂 東武アーバンパークライン(東武野田線)  
大宮公園駅下車徒歩5分

参加費用 300円

お申込み方法

- ① **往復ハガキ** に、①名前②住所③電話番号④イベント名⑤会員の方は会員番号—を明記。返信面に①名前②住所—を記入し、3月11日(金)までに「〒330-0803 さいたまま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会」へ。質問・ご意見もお書きください。当日は往復ハガキの返信面をお持ちください
- ② 友の会ホームページの **連絡フォーム** からご応募ください。

\*定員を超えた場合は、抽選により参加者を決め、3月14日までに返信葉書かホームページで連絡します。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会